

# 今回の報道に対する政治介入及び朝日新聞虚偽報道問題とされる出来事の要点

## 1/12・朝日新聞-NHK番組に中川昭・安倍氏「内容偏り」幹部呼び指摘

「4年前のNHKの従軍慰安婦特集に安倍、中川氏が政治圧力をかけて番組が変えられた。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050112-00000052-mai-pol

安倍、中川氏:「NHKの基本である公正中立な報道を求めただけだ、政治圧力はかけていない。」

http://newleader.s-abe.or.jp/modules/news/article.php?storyid=11

## 1/13・政治的圧力で番組改変 当時のNHK担当者が会見

長井氏:「安倍、中川の圧力で従軍慰安婦の報道番組が封殺された。海老沢会長もグルだ。(涙)」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050113-00000088-kyodo-ent(この後ろの人が朝日顧問弁護士?)

http://news.goo.ne.jp/news/asahi/shakai/20050113/K2005011301850.htmlC=S

## 同日 テレビ朝日 報道ステーションで安倍氏生出演

安倍氏:「NHKと会ったのは放送後であり修正には私も中川氏も無関係。元々危険に偏った番組。長井氏は全部推測でしか言っていない。」

## 1/14・NHKが訂正記事求める (朝日新聞の特番報道について)

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050114-00000217-kyodo-ent

## 同日 NHK-朝日新聞社への抗議文

NHK「完全な歪曲報道。訂正記事を載せ謝罪と釈明を。」

http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/news/003.html

## 1/17・朝日新聞と告発者に通知書 安倍氏、訂正と釈明求め

安倍氏:「朝日新聞は間違いを認め、長井氏は根拠を示すこと。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050117-00000186-kyodo-pol

## 1/18・NHK番組改変問題、朝日新聞社の取材・報道の詳細

朝日新聞:「私が取材した時には、NHK幹部は「圧力を感じる」と言っていた。」

http://www.wafu.ne.jp/diary3/image/20050118asahi-1.htm

NHK:「そんな事は言っていない。朝日の本田記者が間違っている。」

http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/news/003.html

## 1/19・<NHK問題>政治介入ない、朝日報道否定 当時放送総局長

NHK:「NHKとして当たり前の公正中立な編集をしただけだ。朝日記者が虚報を書いている。長井氏は憶測でものを言っている。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050119-00000113-mai-soci

http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/news/004.html

安倍氏:「朝日はそんな程度の証拠で私を告発したのか? 今回の原因は危険に偏向した番組。話のすり替えである。」

http://newleader.s-abe.or.jp/modules/news/article.php?storyid=15

## 1/20・番組改変問題 NHKの会見に対する朝日新聞社の反論

朝日新聞:「取材の時、圧力を感じると言った。NHK松尾氏は嘘をついている。」

http://www.asahi.com/national/update/0120/001.html

http://www.wafu.ne.jp/gori/diary3/image/20050120asahi-2.html

## 同日 ・「朝日は根拠なし」と反論 改編問題でNHK

NHK:「事実はこちらにある。根拠の無い反論を繰り返すな。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050120-00000147-kyodo-ent

## 同日 ・朝日新聞法的措置検討も NHKは反論コメント

朝日新聞:「訂正する理由はない。裁判で明らかにしよう。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050120-00000230-kyodo-soci

## 1/21・NHK-公開質問状

NHK:「根拠の無い反論は説明責任を果たしてない。12日の記事公表の後「摺り合わせ」を持ちかけてきたのはなぜか?」

http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/news/007.html

## 同日 ・朝日新聞社-初めて記者会見

朝日新聞:「NHK松尾氏が朝日に誹謗中傷をしている。謝罪、訂正しなければ裁判を起こす。」

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050122-00000002-san-soci

http://www.wafu.ne.jp/gori/diary3/000441.html

## 【朝日新聞社通告文の要点整理】

▽貴協会(NHK)は、朝日新聞の記事について記者会見を開き、松尾氏(元放送総局長)に朝日新聞社の記事に記載された、私(松尾氏)の発言は正反対のまったく異なる虚偽のものであるなどと述べさせた。

▽NHKは、ニュースにおいて、「朝日新聞報道問題」と題し、記者会見の内容を詳細な松尾発言とともに全国に放送した。翌日のニュースでも、「朝日新聞虚偽報道問題」との表題のもとに、記者会見での松尾氏の発言を再度放送した。

▽しかし、松尾氏が朝日新聞社の記者の取材に対し記事記載のとおり述べたことは動かしがたい事実。再度松尾氏に厳しく確認すること。

▽NHKは、朝日新聞社の記者の取材に対し松尾氏が発言したことは正反対の発言を、同氏の発言として記事に記載したとしている。これは虚偽の事実を摘示し、朝日新聞社の名誉を著しく毀損(きそん)するのである。

▽客観的かつ公平中立であるべき公共放送のニュース番組において、長時間にわたり自己弁護に終始する放送をし、当社の言い分を無視するNHKの報道姿勢は、放送法に照らし、重大な疑問がある。

▽本書面受領後10日以内に回答する事。誠意ある回答がない場合は法的措置を取るので、念のため申し添える。

## 【NHK公開質問状の要点整理】

▽朝日新聞の記事の真偽について。

▽どういった裏付けや根拠となる事実確認をしたのか。

▽朝日新聞が、政治的な圧力を受けてNHKの番組が改変されたと報道している具体的根拠はなにか。

▽取材を受けた松尾元放送総局長は、「中川・安倍両氏からも既に取材している」とか、「政治的な圧力を感じたでしょう」と執ように問いただされたと話しているが、朝日新聞の記事によると中川・安倍両氏への取材は松尾氏への取材の翌日であり、うそについて取材したとすれば取材倫理上、極めて重大な問題だと指摘。

▽取材を受けて20分ほど経過した以降、記者はメモをとっておらず、2時間に及んだ取材内容をどういった方法で正確に記録できたのか。

▽さらに松尾氏が、3日前に、朝日新聞の記者に電話し、「取材に答えた内容の記事の内容が違うので、もし録音テープがあれば、聞かせてほしい」と要求したのに対し、記者は録音テープがあるかどうか明言しなかったと指摘。

▽録音テープがあるかどうか。仮に存在するのであれば、録音の了解を得ておらず、取材倫理に反するのではないか。

▽松尾氏が3日前に朝日新聞の記者と電話で話をした際、この記者は「証言の内容について腹を割って調整をしませんか」「すりあわせができるでしょうから」などと繰り返したことを指摘。記事を掲載した後になって証言内容を調整したりすりあわせたりする必要があったのか。

## 朝日新聞にまず聞きたいこと

## 西岡方(日韓関係研究者)

「安部晋三、中川昭一両代議士がNHKに圧力をかけ番組内容を変えさせた」という、朝日新聞の報道が物議を醸している。中川議員がNHK関係者に会ったのは番組放映後であり、安倍議員も朝日報道のようにNHK関係者を呼びつけた事実はないという決定的な誤報が明らかになっているが、朝日新聞は謝罪と訂正を行っていない。産経新聞などは報道や社説などでこの問題を大きく取り上げ、「女性国際戦犯法廷」なるものを取り上げた番組の内容自体をも明らかにして議論すべきと主張している。筆者はその主張に賛成だが、もう一歩踏み込んで、慰安婦問題を巡る国際的誤解の実態と、そこで朝日新聞が果たした重大な役割をも含めて全体構造を明らかにすべき、と考えている。

というのは、朝日新聞が行った大誤報などが原因で、戦前の日本政府が公権力を持って朝鮮人慰安婦を強制連行したという著しい誤解が日本、韓国はもとよりアメリカなど全世界に広がってしまったことが、公正公平を義務づけられているNHKが問題となった番組を企画した背景の一つだからだ。

話は1991年8月11日までさかのぼる。その日の朝日新聞は「元朝鮮人従軍安婦 戦後半世紀重い口開くと大きな見出しを付けたソウル発記事で「日中戦争や第二次大戦の際、『女子挺身隊』の名で戦場に連行され、日本軍人相手に売春行為を 強いられた『朝鮮人従軍慰安婦』のうち、一人がソウル市内に生存していることがわかり、『韓国挺身隊問題対策協議会』(尹貞玉・共同代表、十六団体約三十万人)が開き取り作業を始めた。同協議会は十日、女性の話を録音したテープを朝日新聞記者に公開した。テープの中で女性は「思い出すと今でも身の毛がよだつ」と語っている。体験をひた隠しにしてきた彼女らの重い口が、戦後半世紀近く経って、やっと開き始めた」と書いたのだ。韓国紙がそれを伝える三日前で、国際的「特ダネ」ということになる。

ところが彼女は「女子挺身隊」の名で連行などされていない。本人が同年八月十四日にソウルで開いた記者会見で「生活が苦しくなった母親によって十四歳の時に平壤のあるキーセン置屋に売られていった。三年間の置屋生活を終えて初めての就職だと思って連れていかれたところが、華北の日本軍三百名余りがいる部隊の前だった」と語っている。同年十二月に彼女が東京地裁に提出した訴状でも同じことを書いている。貧困による人身売買の被害者なのだ。

十一日付けの記事を書いたのは植村隆記者だ。彼は朝日新聞から派遣されて語学留学までした韓国語の使い手だ。その植村記者が、彼女が何を語っているのかわからなかったわけがない。知っていながら意図的に「キーセンとして売られた」という重大事実を伝えず、そのかわりに「『女子挺身隊』の名で連行」などというまったくの捏造報道を行ったのだ。

植村記者は日本政府を相手に賠償を求める裁判を起こした「太平洋戦争犠牲者遺族会」の女性幹部(当時の常任理事、現在は会長)の娘と結婚している。元慰安婦の証言について第一報を書けたのも、義理の母からの情報提供によるのだろうが、朝日新聞は事実を歪曲した重大な誤報を載せて、記者の親族の裁判を応援したことになる。

日本が戦前朝鮮人従軍慰安婦を強制連行したという重大な誤解が内外に広まるのは、この植村記者の誤報などで日本での自虐派の運動が勢いづき、同年十二月に日本 政府を相手に裁判が起こされ、それを朝日新聞などが大々的に報じたことを大きな契機にしていることは関係者にはよく知られている。

筆者は翌92年4月号『月刊文藝春秋』と同年出版拙著『日韓誤解の深淵』でこの点について詳しく書き、朝日新聞に訂正を求めたが、現在に至るまでもそれはなされ ず、それどころか植村記者はその後、ソウル特派員を経て現在、北京特派員として継続して韓国・朝鮮問題について記事を書き続けている。

朝日新聞はNHKの番組などについて取材する前に、まず自社が慰安婦問題についていかに誤報したのかを検証すべきだ。

## 放送法-第3条

放送番組は、法律に定める権限に基く場合でなければ、何人からも干渉され、又は規律されることがない。

## 放送法-第3条の2

放送事業者は、国内放送の放送番組の編集に当たつては、次の各号の定めるところによらなければならない。

- 1.公安及び善良な風俗を害しないこと。
- 2.政治的に公平であること。
- 3.報道は事実をまげないですること。
- 4.意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。